

特別展示

明治の看護婦

ち か

大関和と防疫



写真提供：医療法人知命堂病院

19世紀医学と新しい細菌学が併存した時代

NHK連続テレビ小説「風、薫る」のモデルにもなった大関^{ちか}和（1858–1932）は、明治19（1886）年に開設された桜井女学校看護婦養成所で第一回生として看護を学んだ、近代日本の看護婦の先駆者の一人です。帝国大学医科大学第一医院に委託生として1年間通学し、アグネス・ヴェッチからナイチンゲールの看護方式を学びました

本企画展では、『看護婦派出心得』『実地看護法』『婦人新報』などの一次史料を通して、大関和が近代日本の防疫と看護の発展に果たした役割を紹介します

国立看護大学校 図書館

2026.10.11～2027.10.10

「明治の看護婦 大関和と防疫」

ごあいさつ

19世紀医学と新しい細菌学が併存した時代

NHK連続テレビ小説「風、薫る」のモデルにもなった大関^{ちか}和（1858-1932）は、明治19（1886）年に開設された桜井女学校看護婦養成所で第一回生として看護を学んだ、近代日本の看護婦の先駆者の一人です。帝国大学医科大学第一医院に委託生として1年間通学し、アグネス・ヴェッチからナイチンゲールの看護方式を学びました。

明治時代にはコレラや赤痢などの伝染病がたびたび流行し、防疫は、近代日本において看護婦が担う重要な役割の一つとなりました。「防疫」とは、感染症を予防し、その流行拡大を防ぐための衛生活動を指し、明治時代に広く用いられた言葉です。

本企画展では、『看護婦派出心得』『実地看護法』『婦人新報』などの一次史料を通して、大関和が近代日本の防疫と看護の発展に果たした役割を紹介します。

当時は、コレラなどの伝染病を「瘴^{しょうき}気」によって説明する19世紀の疾病観が残る一方、コッホによる結核菌の発見（1882年）、北里柴三郎とアレクサンドル・イエルサンによるペスト菌の発見（1894年）、志賀潔による赤痢菌の発見（1897年）など、新しい細菌学的知識が急速に広がった時代でした。

明治42（1909）年に大関看護婦会を設立して派出看護婦制度の発展に尽力しましたが、1918年のスペイン風邪の流行時には看護婦が不足し、患者から感染して帰って来る看護婦や、その感染によって「殉死」する仲間の看護婦もありました。

そうしたなかで、大関和は、防疫は病人ひとりを看護するだけでなく、全国に広がる伝染病から国を守るものであり、派出する看護婦の責任は重大であると訴えました。衛生観念がまだ十分に普及していなかった時代に、病人の家庭で消毒を行いながら看護することには、多くの困難が伴いました。不幸な同胞を助けて国に報いることを看護婦の使命と捉えて、新たな道を切り拓いていった大関和の歩みをご覧ください。

国立看護大学校図書館長 小島 優子